

授業科目名	フィールドワーク（職業選択とインターンシップ）	授業形態	講義・実習
英語科目名	Field Work	開講学期	通年
対象学年	1	単位数	4
科目責任者	四方 昌利	ナンバリング	6001
科目担当者			
平林正樹（実務経験有り） 道谷里英（実務経験有り） 四方昌利（実務経験有り）			
授業の概要			
<p>本学部の多くの学生は、卒業後に企業・組織への就職を予定していると思われます。企業による採用活動は早期化・多様化している一方で、情報の氾濫によって社会に出るにあたっての不安を感じたり戸惑ったりしている学生もいることでしょう。</p> <p>当科目では、「就活って、何から始めたらいいかわからない」、「自分がやりたいことが決まらない」、「そもそも就職できるだろうか」などの疑問や不安を抱えている学生のみなさんが、職業選択にあたっての正しい情報を修得し、自己理解・企業訪問・仲間づくりといった自律した行動をとって大きく成長することを目的としています。</p> <p>この目的を実現するために、以下のイベント等への参加を組み込んだフィールドワーク科目として企画されました。</p> <p>①就職活動キックオフ：就職活動への意識醸成と自己理解を深めることを目的として、ワークショップ、卒業生の体験談、現役社会人によるフィードバックなどの充実したプログラムによるイベントを予定しています（時期：5月29日（土） ZOOM開催を予定）。</p> <p>②インターンシップ：夏季休暇期間中に「合計5日間以上」のインターンシップに自主的に参加すること。</p> <p>③キャリア支援セミナー：通年にわたり開催されるキャリア支援セミナーに、「10回以上」参加すること。</p> <p>当科目は、SWT（School to Work Transition：学校から仕事・社会への移行）期の職業選択に焦点を絞った科目です。キャリアデザインⅠ／Ⅱ科目の実践・応用科目として企画され、キャリア教育担当教員と就職・キャリア支援室スタッフ、さらには学外の社会人サポーター等との協働によって運営されます。従って、適宜学外の社会人の登壇と情報提供、ディスカッション等も想定しています。</p> <p>2019年度以降の入学生が履修登録可能な科目です。内容は、就職活動が実質的に始まる3年生を対象として想定しています。</p> <p>また、きめ細やかなフォローが必要なことから、履修登録者数を制限することがあります。履修希望者は必ず1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。</p> <p>【関連するディプロマポリシー（DP）】</p> <p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力</p> <p>DP③ 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>			
授業の達成目標			
<p>次の3つの力を身につけること。</p> <p>1. 職業選択にあたって必要な自己理解・職業理解・企業理解の方法を知り、意思決定する力。</p> <p>2. 満足のいく職業選択に必要な行動を、自律的・主体的に起こす力。</p> <p>3. 同じ目標を持った仲間づくりをおとした、豊かなコミュニケーション能力。</p>			
成績評価方法			
<p>講義、就職活動キックオフ、キャリア支援セミナー等を含むすべてのアクティビティに対する出席・参画度合によって判断します。</p> <p>単位認定には、以下の条件があります。</p> <p>①5月29日（予定）に実施する「就職活動キックオフ」の全行程に参加すること。</p> <p>②就職・キャリア支援室が主催するキャリア支援セミナーに、2021年度通期で10回以上出席すること</p> <p>③夏季休業期間中に合計5日間以上、インターンシップに自らの力で参加すること。</p>			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
・この科目はフィールドワーク科目ですので、「キャップ制」の対象外です。「年間履修登録単位数」上限の枠外として、履修登録が可能です。			

・この科目は個人ワークやグループワーク、発表等をとおりて自分と向き合いながら、皆さん自身が進路決定することを応援する科目です。就活に立ち向かう心構えと自信を手に入れましょう。

2021.4.14追記

「職業選択とインターンシップ」を履修希望の1年生の皆様

本講座を担当いたします四方（しかた）昌利です。
多くの学生の皆さんに履修登録をいただきました。有難うございます。

そのような状況の中で心苦しい限りなのですが、想定を超える数の希望者がいらっしまったため今年度の開講にあたっては、学習効果の観点等から受講者を絞らざるをえなくなりました。
4月12日時点での受講希望者は141名で、うち1年生が40名いらっしますが、結論として、「履修者を2年生以上とする」としたいと思います。

本講座はタイトルの通り、キャリアデザインの中でも職業選択（就職）活動を意識した実践的な内容となっています。例えば、授業もインターンシップやセミナーへの参加だけでなく具体的な採用選考のための演習も組み込まれています。これらの点を考慮に入れると、遠隔授業を前提に質の高い授業運営を行うことは、現在の人数規模では困難と判断しました。また、講座の趣旨に照らせば、職業の選択により近い学生諸氏の受講を優先するべきとも考えます。

従って、今年度の開講にあたっては以下のように致したいと考えます。

- ① 履修対象者を2年生以上とします。
- ② 1年次からインターンシップに参加を希望する皆さんに対しては、準備のための特別講座をキャリア支援セミナーとして設けます。
現時点では、6月2日（水）5限の開催を予定します。
- ③ 1年次からのインターンシップ参加や個別キャリアデザインに関する相談は、就職・キャリア支援室のキャリア面談で一人ひとりに対応します。
また、一連のキャリア支援セミナーには、本講座の履修に関わらず積極的に参加してください。

以上、履修希望の1年生の皆さんには誠に申し訳ありませんが、諸事情をご理解いただき上記②、③をご活用くださいますようお願い致します。

テキスト・参考書

必要に応じて、適宜紹介します。

オフィスアワー

必要に応じて、担当教員に事前にメールをお送りください。
・四方昌利（m.shikata.nv@juntendo.ac.jp）
・平林正樹（m-hirabayashi@juntendo.ac.jp）
・道谷里英（r-michitani@juntendo.ac.jp）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

JPASSと学内メールを活用してフィードバックします。

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】

授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）
1	四方昌利	【講義】オリエンテーション ・科目の全体像説明 ・就活スタートダッシュ合宿詳細	【予習】事前配布資料の読み込み（90分） 【復習】学びの整理/行動計画策定（90分）
2	四方昌利	2021年度（2021年4月～2022年1月）に開催される「キャリア支援セミナー」への参加（通期で10回以上参加すること）	【予習】事前配布資料の読み込み（90分） 【復習】各回の復習と今後の活動への応用（90分）
3	四方昌利 道谷里英 平林正樹	就職活動キックオフ （5/29 ZOOM開催を予定）	【予習】事前課題（90分） 【復習】行動計画の策定と事前準備（90分）
4	四方昌利	【講義】インターンシップへの準備	【予習】事前課題（90分） 【復習】目標の設定、志望業界・企業の研究（90分）
5	四方昌利	合計5日間以上のインターンシップ参加（夏季休業期間中）	【予習】志望企業へのエントリー（90分） 【復習】学びの整理と内省（90分）
6	四方昌利	【講義】インターンシップの学び	【予習】学び・気づきのとりまとめ（90分）

授業科目名	フィールドワーク（起業力養成とビジネスプラン）	授業形態	
英語科目名	Field Work	開講学期	
対象学年	1	単位数	2
科目責任者	平林 正樹	ナンバリング	6001
科目担当者			
伊東 辰彦 平林 正樹（実務経験あり）			
授業の概要			
<p>経済のグローバル化が進み、社会の変化の速度がますます激しくなる時代の中において、皆さんは自らの将来にどのような思いを馳せているのでしょうか。</p> <p>「いつかは起業してみたい」と考えている方はもちろん、企業に就職するにしても、公務員を目指していても、はたまた研究者の道を歩もうとされてる学生にとっても、これからの時代を生き抜くためには「起業家精神（アントレプレナーシップ）」が必要となります。</p> <p>VUCAの時代（※2）においては、大企業にずっといることの方がリスクの高い時代でもあります。今や、誰もが「起業」という選択肢を持つておく必要があるといえましょう。</p> <p>当科目は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代に必要となる「起業家精神」を養成すること ・ビジネスマインドを身につけること ・キャリアの選択肢を広げること ・世の中に大きなインパクトを与える優秀な企業家・起業家を輩出すること ・グループワークを通して価値観の違いに気づき、協調して一つのものを形にすること <p>を目標にして設計をいたしました。</p> <p>第2回～第10回は、外部の起業支援の専門家が中心となって講義を進めます。また、4名の起業家にゲスト講師としてお越しいただき、起業経験を赤裸々に語っていただく贅沢な内容となっています。なお15回の講義のほか、課外でのグループワークによる成果物（ビジネスプラン）の作成が求められます。履修の対象学年は、1～4年の全学年です。</p> <p>意欲のある皆さんが参加され、お互いに切磋琢磨することによって大きく成長することを期待しています。</p> <p>※1：初回授業は「2021年4月14日（水）」といたします。全15回とするために、補講がありますのでご注意ください。</p> <p>※2：「VUCAの時代」とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つの単語の頭文字をとった造語で、「ブーカ」と読む。あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、想定外の事象が次々と発生するため将来の予測が困難な正解のない時代」を意味する。</p> <p>【関連するディプロマポリシー（DP）】</p> <p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力</p> <p>DP③ 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>			
授業の達成目標			
<p>次の3つの力を身につけることです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起業や会社経営に必要な基礎知識。 2. アイデアの芽をビジネスプランにまで落とし込む力。 3. 将来のキャリア選択の幅を広げ、自らの可能性に挑戦する力。 			
成績評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> ①平常点（45点）：出席、講義への参画度、グループワークへの貢献度 ②期末テスト（30点）：講義全体を通じた知識と学びの確認 ③ビジネスプラン（25点）：成果物への貢献度・完成度とプレゼンテーション 			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
<p>当科目の単位認定には、以下の全てを満たす必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全授業回数の2/3以上に出席すること。 2. グループワークに主体的に参画し、成果物の完成に貢献すること。 3. 各回の課題や提出物を遅滞なく提出すること。 4. 最終回に行われるビジネスプラン発表会に主体的に参画すること。 			

- ※1：初回授業は「2021年4月14日（水）」といたしますので、ご注意ください。
- ※2：この科目はフィールドワーク科目ですので、「キャップ制」の対象外です。「年間履修登録単位数上限」の枠外として、履修登録が可能です。
- ※3：当科目は5～6名をグループとしたグループワークの必要性から、履修登録者数の上限を「30名」に制限します。履修希望者は必ず1回目の授業に参加してください。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意してください。

テキスト・参考書

- ・テキストはありません。
- ・毎回の資料はJPASSの「授業資料」に添付しますので、適宜参照してください。
- ・参考文献は、随時紹介します。

オフィスアワー

授業後の60分間。

数日前までにメールにて連絡し、予約をしてください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

JPASSを活用したフィードバック

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】

授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）
1	平林正樹	オリエンテーション □ 狙いと履修者への期待 □ 科目概要と進め方	【予習】事前配布資料の予習、「自分が起業するとしたらどんな業態・ビジネスなのか」を妄想しておく（90分） 【復習】学び・気づきの整理、「志望理由書」の作成・提出（90分）
2	平林正樹	【講義1】（外部講師） □ 創業の心構え □ ビジネスプランの立て方	【予習】事前課題（90分） 【復習】学び・気づきの整理（90分）
3	平林正樹	【講義2】（外部講師） □ 事業について □ 提携先と役割	【予習】事前課題（90分） 【復習】学び・気づきの整理（90分）
4	平林正樹	【ワークショップ1】（外部講師） □ 連携・協力できそうな団体・個人 □ 事業プランの整理	【予習】事前課題（90分） 【復習】目標の設定／グループ行動スケジュールの策定（90分）
5	平林正樹	【ゲスト講師1】（外部講師） インターネット広告業社長	【予習】講師に関する事前調査と質問提出（90分） 【復習】学び・気づきの整理と提出（90分）
6	平林正樹	【ゲスト講師2】（外部講師） □ 創業支援ガイドブックの制作・販売会社社長	【予習】講師に関する事前調査と質問提出（90分） 【復習】学び・気づきの整理と提出（90分）
7	平林正樹	【講義3】（外部講師） □ 経営管理 □ 資金調達 □ 収支計画	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
8	平林正樹	【講義4】（外部講師） □ 商品・サービスについて □ プレゼンテーション	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
9	平林正樹	【ワークショップ2】（外部講師） □ 事業計画書の作成	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
10	平林正樹	【ゲスト講師3】（外部講師） □ 女性起業家	【予習】講師に関する事前調査と質問提出（90分） 【復習】学び・気づきの整理と提出（90分）
11	平林正樹	【講義5】 □ ビジネスとは顧客に価値を届けること	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
12	平林正樹	【講義6】 □ どうやってスケールするビジネスを見つけるか	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
13	平林正樹	【講義7】 □ 事例研究「企業の誕生」～メルカリ～	【予習】事前課題（90分） 【復習】グループワークによる発表会の準備（90分）
14	平林正樹	【ゲスト講師4】	【予習】講師に関する事前調査と質問提出（90分）

授業科目名	フィールドワーク（「リベラルアーツ」研究）		授業形態	演習
英語科目名	Studies on Liberal Arts		開講学期	前期・後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	伊東 辰彦		ナンバリング	6001
科目担当者				
伊東 辰彦				
授業の概要				
<p>近年、世界的にその価値が再認識されつつある「リベラルアーツ」という概念についての学問的及び実践的考察を深める。古代ギリシャ、ローマに端を発し、ヨーロッパ中世から近現代に受け継がれ、アメリカ社会での変容を通して、日本を含むアジアに伝えられることで、新たな世界的意義を獲得しつつある、この概念の歴史と変容の有様について具体的事例を通して学ぶことを通して、人間にとって教養とはどのような意味があるのか、また、特に高等教育の現在と未来にどのような影響を持ち得るのかを共に考える。リベラルアーツ教育は閉ざされた学問分野としてではなく、そうした思考の実践のあり方を常に検証してゆく場を確保することが必要であり、このコースでは、学生自らが、本学部が標榜する国際教養というものを概念としてどのように捉え、普段の大学生活の中で、それをどのように実現してゆくことができるかを、共に考えることが重要である。まさに、新型コロナウイルス感染症による今後の世界的影響が不透明である今だからこそ、国際的リベラルアーツの可能性がより注目されるべきであろう。</p>				
授業の達成目標				
<p>学生は、講義内容を反復するのではなく、それに基づいて自らの問いを発見し、レポートやグループ・ディスカッション、グループワークを通して、自らの言葉で意見を表現することが求められる。また、一般社会において「リベラルアーツ」と呼ばれながら、その真の意味や特徴がはっきりと理解されていない現状を踏まえ、歴史的、実証的、経験的観点から、その総合的な理解を深めることが期待される。そして、私たちが順天堂大学国際教養学部にも属することの意味を客観的に認識し、今後の社会的活動、あるいは個々人の人生において、その学びがどのように活かされるべきかについて、自らの意見を他者と共有することを通して、より深めていくことが重要な目的となる。</p>				
成績評価方法				
レポート（3 x 10=30%）、グループ・ディスカッション（2 x 10=20%）、グループワーク（30%）、シンポジウム準備（20%）				
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）				
<p>最大登録人数を15人から18人とする。剽窃行為や無断欠席があった場合は、登録を抹消する。やむを得ない事情で欠席する場合は、教員に事前に連絡すること。グループは原則3人とし、各自が平等に責任分担するように配慮する。前期、後期を継続して登録することを前提とする。 ※履修対象者は2~3年生とする。</p>				
テキスト・参考書				
<p>基本的に毎回の講義で指示するが、基本的な文献については初回の講義でリストを配布し、内容を説明することとする。 主要なものとしては、1) 伊東辰彦・森島泰則、『リベラルアーツという波動』学研プラス、2019年、2) 伊東辰彦、今井純子、道谷里英、大槻茂実、岡部大祐、齋藤美野、白山芳久、「国際的教養の構築に向けて」、『順天堂グローバル教養論集』6（2020）：1-9、3) 菅野恵理子、『MIT マサチューセッツ工科大学 音楽の授業』あさ出版、2020年、4) JUNG, Insung, NISHIMURA, Mikiko, and SASAO, Toshiaki, eds., Liberal Arts Education and Colleges in East Asia: Possibilities and Challenges in the Global Age (Springer, 2016). 5) What is Liberal Education and what could it be? European Students on Their Liberal Arts Education, European Liberal Arts Initiative (Online: www.liberal-arts.eu)がある。</p>				
オフィスアワー				
原則として授業の前後とする。それ以外は、個別に相談して決めることとする。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法				
個人のレポートについては授業内で返却する。グループワーク、報告については、別途方法を相談する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）	
1	伊東 辰彦	導入、コースの概略の説明、文献 解題	【予習と復習】自分自身の生活の中で、リベラルアーツ的思考がどのように作用しているかについて、自らの体験を口頭で具体的に説明する準備をし、それを文章化する。	
2	伊東 辰彦	古代ギリシャ・ローマの伝統	【予習と復習】事前に配布した資料を読み、古代の考え方について学ぶと共に、それが、現代の我々にどのように関係しているのか、どのような意味があるかを考える。	

